

平成 27 年 6 月 8 日

横浜市長 林 文子様

認定 NPO 法人ホテルのふるさと瀬上沢基金
理事長 角田 東一
横浜市港南区港南台 9-30-31
連絡先 ☎ 090-6191-1861

整開保における人口比較と市の姿勢について

横浜市は新たな整開保について、「人口減でも人口フレームによらない新たな計画フレームを検討するというのは、市のマスタープランや県の整開保と整合性が無い」という市民意見に対し、「見直しの基準年次である平成 22 年の人口と、見直しの目標年次である平成 37 年の人口を比較すると、人口は増えている」と回答しています。

基準年度を 5 年も前にすることは、国交省でも神奈川県でも行っていません。現在の人口を基準にすれば、目標年次の平成 37 年の人口は減少傾向が明らかです。

「平成 37 年の人口は増えている」という市民に誤解を与えかねない表現は不適切であり、人口が減っても宅地を増やすという横浜市の姿勢は、国や県の方針と整合性が無いと考えますが、市長の見解を伺います。

ホテルのふるさと瀬上沢基金は

横浜に残された貴重な緑と里山を守り、次の世代に伝えてゆく為に、多くの市民と共に活動しています。瀬上沢が全面保全された暁には、市民や企業・地元地権者の方々の協力を得て行政と共に里山や田んぼの復元など、瀬上沢保全の一翼を担っていく所存です。

現在、延べ 13,000 人の方々から 860 万円の寄付が寄せられています。瀬上沢の全面保全を目的として土地取得・借用の為にナショナル・トラスト基金として寄付されたものです。評価委員会には、この浄財が瀬上沢の為に使用可能となる決定を切望します。